
昨日の夕飯何食べた？

カオス三世

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

昨日の夕飯何食べた？

【Nコード】

N3501B

【作者名】

カオス三世

【あらすじ】

普通の高校の普通の入学式でのお話

第1話：オレと下着と革命児（前書き）

注意：この小説を読んであなたが不愉快に思ってもオレはしらん。
まったくしらん。

第1話：オレと下着と革命児

時は春。始まりの季節。ここ光幸高校で入学式が行われていた。オレの名前は柊崧斗。15歳。ピカピカの一年生だ。中肉中背。趣味は読書。好きな言葉は切磋琢磨。中学での成績は上の中。好きな女の子のタイプは優しく一緒にいて楽しい子。尊敬する人は野口英世。将来の夢は小学校の先……………てかお前。これ読んでるお前。そ・こ・の・オ・マ・エ。オレの名前読めた？ちゃんと読めた？どうせ『こんなこった名前つけやがって、読む気失せるわ』って思っただろ？『ひいらぎしゅうと』って読むんだ。てかわかりにくいから今度から柊崧斗って感じの漢字みたらブラジャーって思え。いいか？主人公はブラジャーだ。ではテスト。『次の漢字を見て想像を膨らませろ』

柊崧斗

ブラジャーが思い浮かんだお前はもうれっきとした変態だ。

『柊崧斗』って漢字からブラジャーなんて発想をするなんてな…。

正直引くわ。画面から2m離れてくれ。赤と青の画面が交互に高

速に表示されて吐き気をもよおしたら大変だからな。オレっていいやつだな。てか『部屋を明るくしてテレビから離れて見てほしい』ってテロップ考案したのオレ。ウソ。じゃあ自己紹介の途中からな。

オレの名前は柊松斗。

15歳。ペカペカの一年生だ。牛肉最高。趣味は超人間観察ごっこ。好きな言葉は『ゴメン、オレの赤外線ついてないんだ…』。中学での成績は下の下の下の下の中。好きな女の子のタイプは巨乳。尊敬する人はタップダンサー。将来の夢はどうして人の家には独特な二オイがありその二オイはいつたいどこから発生しているのかを突き止め20文字以内にまとめること。そんなことでオレをよろしく。最初と自己紹介の内容がすこしだけ変わっているのは漫画の作者の画力が連載することになるのと同じようなシステムだからなのだ。このシステムを『主人公顔変わりまくりじゃんシステム』と人は呼ぶ。

てなことを入学式の間考えてたらいつのまにか校長のお話、先生紹介、高校での注意事項などのイベントが終了してるじゃありませんか。

クラス毎に体育館から退場していく。

オレは4組で名前的に列の真ん中より後ろ。

3組の後ろを4組の先頭が追う。

オレはふと思う。

オレは決められた場所に、決められた通路を通り、決められた列で移動している。

コレっておかしくないか？どこに向かうか、どこを通るか、誰と共に、これらを決めるのは自分自身なんじゃないのか？これだから世の中は、日本は変わらないのだ。

自分の道を歩むことのできない者が親の造った道を通り政治家や医者などになっていては未来は暗い。この世のかオレが変えてやる！今からこの4組の列から抜け出し、逆走し、校長に今何をすべきか、本当に重要な教育とはなんのかを教えてやる。いや………落ち着け……。もしここでそんな行動をとったら退学になるかもしれん。最悪退学を逃れてもオレはクラスで浮いた存在となる……。

『我が道を進め』

オレは何か聞こえた気がした。

『我が道を進め』…今は亡父がよく言っていた言葉だ…。オレは決意した。オレはこの手でこの世を変える！列を飛び出した。他の生徒の目を気にもせず逆走する。オレは誰にも止められん。今のオレならどんなに険しい山でめ、どんなに荒れた海でも越えられる…。すると竹刀を持った筋肉質で恐面の教師があらわれた。『どこへ行く？』教師は尋ねる。『そこをどけ。我はこの世を変える者。邪魔をするなら容赦はせん』とオレは言うところを口が回らずこつ言った。

『トイレはこつちですか？』

よ
ね
？

っ
っ
く

第2話・くじとアイツと自己紹介（前書き）

はい、適当に第2話完成。感想が欲しかったりする

第2話：くじとアイツと自己紹介

トウデイイズ入学式のネクストデー、イエーイ。

何故のっけからイングリッシュユっかって？それは、うちのクラスの担任が英語のティーチャーだからデース。しかも女性！すなわち英語女教師！

この設定でテンションがアップしたキミ、現実をみる。そして、思い知れ！

田中菊子、推定年齢45歳

ハイッ、論外。

んで今日はこれからの学校生活を上下左右する重要イベントが開催される。そう、『ZIKOSYOKAI』。英語の苦手な人のために日本語に訳せば『自己紹介』。キミは自己紹介の恐ろしさを知っているだろうか？過去にこの戦^{いくさ}によって仮死状態になった奴を俺は何人も知っている……。

あれは2年前の春。俺が中学2年に進級したときのことだ。やはりあの時も好例イベント『自己紹介〜己の鎮魂歌〜』が開催されていた。そこで奴は言い放った。

「僕の名前は桜井一。」

14歳、独身です。

って当たり前か！趣味は盆栽。

ウソウソ、そんな中学生おりまへんて。

って関西人ちゃうよワイは。

マジな事いうと趣味は読書。好きな本はエロ本。冗談ですて奥さん。実際のところは推理小説がむっさ好きですか？って疑問形か！そんなことでシャイで恥ずかしがり屋な僕ですが……ってシャイと恥ずかしがり屋一緒やんけ。んでどっちも当てはまらんやんけ。こんな僕ですがよろしくクリスマススイブは一人でM1」

その日、彼のカバンに残飯が入れられていたとかいないとか……。てな感じだから自己紹介はとても重要なんですね。

「はい、もう何言うか決まりましたか？」

田中先生、英語の教師ならイングリッシュで言ってもらいたいな。どうせ意味理解不可だけど。

こういうのは何を言えば好感を持たれるのか15年間生きているが今だにわからん。まあ、どうせ順番は出席番号だろう。俺の名字は柊^{ひいらぎ}。よってあいいうえお順の出席番号は25番。他の生徒の自己紹介を参考にするなら十分すぎるぜ。

「じゃ

あ順番はくじで決めます」

サプラーリーイズッ

しまった、焦りのあまり俺のネイティブなイングリッシュがマイ
ンドの中でこだましてしまった。

落ち着け、I、m y、m e m a i n。先生が持っていた割り箸の
束はそういうことか。俺はてつきり綿菓子でもおごってくれるのか
と思つてたぜ。考えろ、俺。うちのクラスは40人ジャスト。平均
で考えれば順番は20番だ。ましてや1番になる確立は2.5%に
しかすぎない。

しかも中学の時、給食残り物争奪戦のジャンケンにも勝てず、気
になる子の隣の席になれなかった俺には、2%の補正が掛かる！

「さくて一番に当たるラッキーな人は……25番。え」と、
柊君から」

アーーーーンヴィリイーーーーヴァヴォーーーー

誰かご都合主義撤廃のプラカードを造ってくれ。

実はあの

「自己紹介〜己の鎮魂歌〜」
には続きがある。

はじめは変人と見なされいじめられまくった桜井だったが次第に根
はいいい奴だということが判明し、最終的にはクラスの中心人物にま
で押し上がった。つまり、はじめにどんな形であつても目立つこと
により後々大逆転の可能性が秘められるということ。地味に自己紹
介をして地味に生きるか、派手に自己紹介して賭けにでるか……。

『物語を盛り上げる』

俺は何かが聞こえた気がした。『物語を盛り上げる』…今は亡き父が言っていた言葉だ。そう、今俺がすべきなのは物語を盛り上げることただ一つ！

ガガガガッ

椅子が床を引きずる音が静まりかえった教室にこだまする。俺は立ち上がった。使命を果たすため。

「柊松斗です。宙楽中学から来ました。早くクラスに馴染みたいと思っ

苦情は一切受け付けない。

他の生徒も田中生徒が引くくじの順序で至って普通の自己紹介をしていった。残るくじは最後の一本。

「さあ、ラストの自己紹介をしてくれるのは26番。本間君。お願いします」

真後ろか、わざわざ振り替えて顔をガン見する必要もないだろう。それにしてもつまらん。40人もいるんだからもつとキャラの濃い変人がいてもいいと思う。

「本間竹信。このクラスの会長になろうと考えている。僕が会長になったあかつきには学校の風紀を乱すような事を行う生徒にはそれなりの対応をとりたいと思う。しかもこのクラスにはクラスで列をつくり移動しているのにも関わらずいきなり列を離れ暴走する愚かな生徒が存在するようだ……」

俺はゆっくり、そして慎重に背後に立つ者の顔を見た。痩せ型の体系に黒淵のメガネ。だが決して格好悪いとは言えない引き締まった顔。そして黒淵のメガネの奥に潜む鋭く冷たい眼。その眼は俺を見下している。俺はいつものふざけた心の声が出せないでいた。

つづく

第2話：くじとアイツと自己紹介（後書き）

感想が欲しかったりするのですか？って疑問形か！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3501b/>

昨日の夕飯何食べた？

2010年11月20日02時59分発行